

調和体を書く (21)

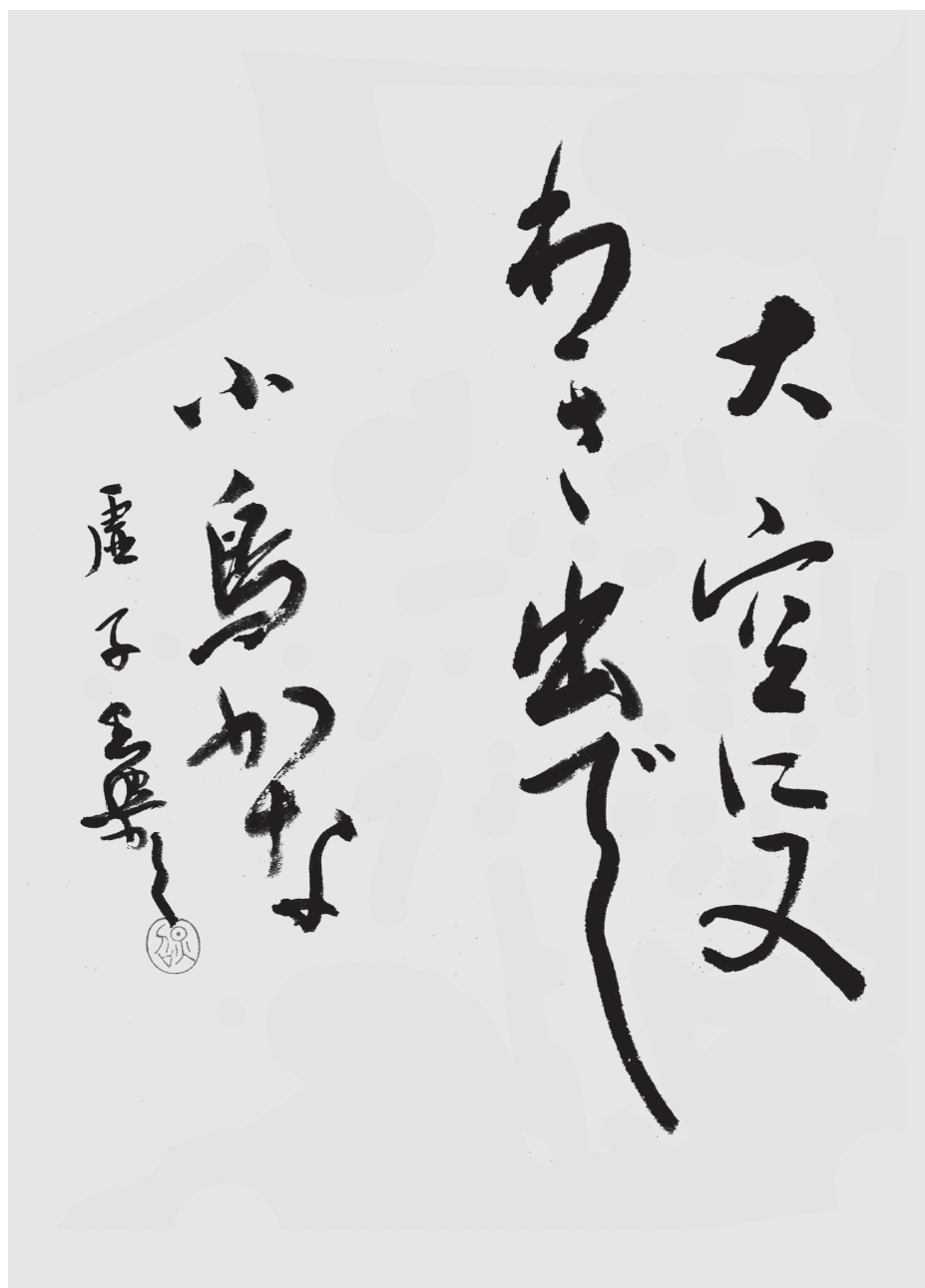
締切り 九月二十五日 (必着)

回作品の出し方

▼硬筆部 B5判 (二五七mm×一八二mm) 以下の紙に書いて下さい。用具は自由です。(黒色に限る)
▼毛筆部 B5判に書いて下さい。(筆ペン可)
▼出品制限の対象とはしませんが、出品は硬毛のどちらか一方に限ります。

▼事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・硬筆規定の成績(毛筆の場合は毛筆漢字の成績)を、作品余白にお書き下さい。
▼優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。

奥村憲照先生書



◆書道のジャンルには、大別して「漢字」「かな」「漢字かな交じり書」の三つがあります。

◆現代日本の文章表現は全て漢字かな交じり書ですが、ここでは芸術的創作作品を指し、「調和体」「近代詩文」として書道の一部門を占めています。

◆今回のお手本は、前会長奥村憲照先生が(財)日本書道教育学会に關係していた頃の新しい様のお手本です。本誌初登場です。

〔読み〕

大空に又わき出でし

小鳥かな

虚子

〔解説〕

①可読性を大切に。

②変体仮名・連綿はなるべく控える。

③構成を工夫してみよう。

※落款(署名・捺印)は作品の一部としてバランスよく収めて下さい。

「憲照かく」は、ご自分の名をお書き下さい。印のない方は赤ペンで□を書き入れて下さい。

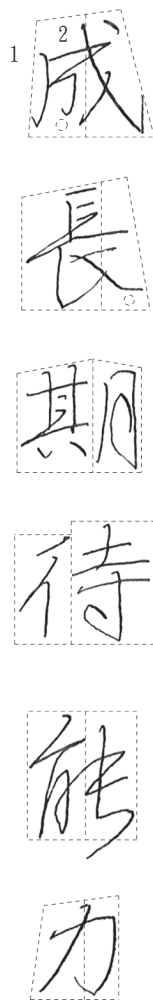
お詫びと訂正

▼大書心八月号の巻頭の「鑑賞」の中で、冒頭の読み「拝啓」は誤りで、正しくは「拝復」でした。お詫びし訂正いたします。

準初段から六段まで

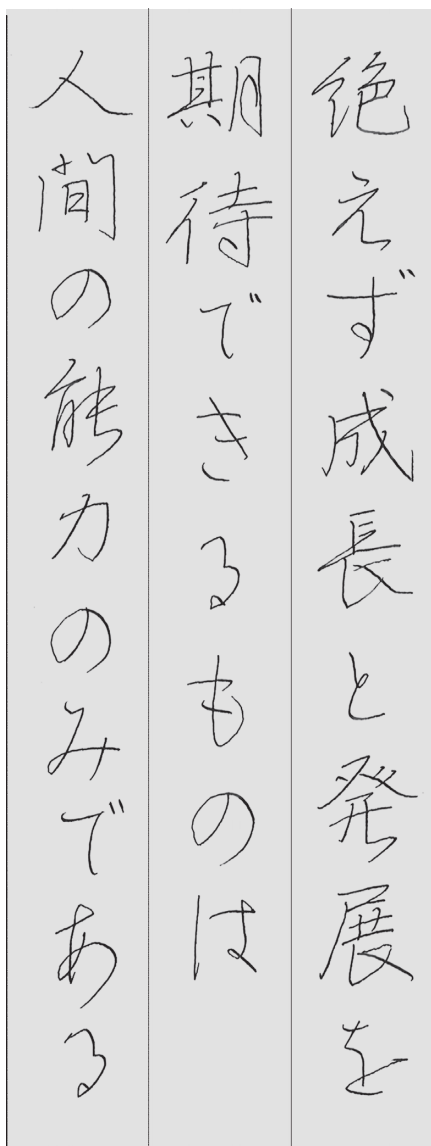
新入から1級まで

〔解説〕



◎行書では、運ペンは常に軽く、字形よりもリズム、スピード感を重視して書いてみよう。

▶教範・書範は右課題を「楷書」で、師範は「行草または草書」で出書して下さい。



おか だ りゅう ほう 書
岡 田 龍 芳 書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会段位用紙

〔解説〕



やや小ぶりに書く



おお たに せい じょう 書
大 谷 清 城 書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会級位用紙

★無智は…（書体Ⅱ楷書）

吉川栄治（二六九～一九六二）

昭和期の小説家

誰でも無智であるより、有智の方がよいと考えますが、無智であれば邪念が働く余地がなく、生半可な知識は行動に迷いを生じさせることもあります。謙虚さ、純粹さ、素直な気持ちを持ち続けることが、こざかしい知恵を大きく凌駕することとなるでしょう。

◆10月課題予告（行書）

失敗は落胆の

原因ではなく

新鮮な刺激である

★絶えず…（書体Ⅱ行書）

ドラッカー（一九〇九～二〇〇五）

アメリカの経営学者

成長と発展が期待できる人間の能力「知識」は、絶えず再確認し、学び直し習練していないと、すぐに陳腐化して忘れてしまいやすいものです。そこでドラッカーは人間の能力が停滞することがないように「企業は教育投資を怠るな」と何度も言っています。

◆10月課題予告（楷書）

学問の本趣意は

読書のみに非ずして

精神の働きの在り

▼教範・書範Ⅱ行草または草書

▼師範Ⅱ行書

一般部かな課題

締切り 9月25日(必着)

準初段から六段まで

新入から1級まで

ちぎり契里支那閑多な耳かたみに都渋き柿二つ

ちぎりきなかたみに洪き柿二つ

■両課題とも、文字の変換・配字は自由です。

た なか き こう
田 中 貴 光 書

▷用具=自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会段位用紙

た なか き こう
田 中 貴 光 書

▷用具=自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会級位用紙

ちぎりきなかたみに渋き柿かき二つ

（おおもとおえまる）
大伴大江丸

「句解」互いに洗い柿を一つずつちぎ
り取ったことですね。甘いものと確信
しあったのに。
ごしやうい

〔鑑賞〕『後拾遺集』第十四、恋四の清原元輔（清少納言の父）の（心変り侍りける女に人にかはりて、契りきなかたみに袖をしぼりつつ末の松山浪越さじとは）のパロディ。原歌は「約束しましたね。互いに涙にぬれた袖をしぼりつつ、末の松山を浪が越さないように、二人の愛も決して変わることはない、と。それだのにあなたの心は、変わってしまったのですね。」という女性の裏切りを恨む男の歌である。

〔古筆参考〕

支き 耳に 多た 閑か 那な

あ う め 木 ね
あ う め 木 ね
あ う め 木 ね
あ う め 木 ね
あ う め 木 ね

〔解説〕「」「」「」の点を

「柿」の字が大きい為、「ア」「イ」「エ」は少し小さく書きバランスを取る。

◆10月課題予告

戸口より人影さしぬ秋の暮くれ

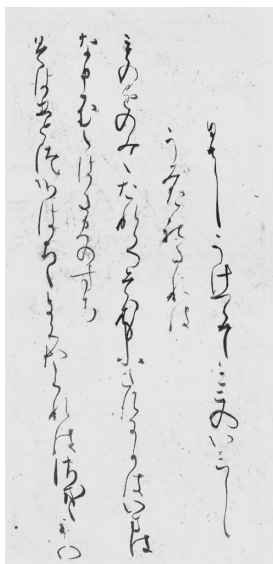
（まっおかせい）
松岡青蘿

締切り 九月二十五日（必着）

築瀬舟香書

〔古筆参考〕

いずみ しき ぶぞく しゅうぎれ
和 泉 式 部 続 集 切



ひさし^日うけづらでかみ^可のいみじ^三
うみだ^礼れた^多れば
もの^毛のをみ^礼だ^礼れてぞおも^於ふた^多れに^礼か^尔はい^可ま^万は
な^日び^可か^可む^多ば^多たまの^多す^多ち
み^見は^悲ひと^徒つ^徒心^徒は^徒ち^徒ぐ^尔に^久く^久だ^久く^久れ^久ば^久さ^佐ま^万ぐ^万もの^毛

あふのち
あふのち
あふのち

そいつを
おかし
が

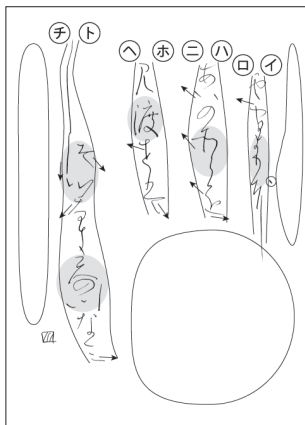
雲間より星合ひの空を見わたせば
利本しあ 所ら 渡 世盤
 しづ心なき天の川波
徒 奈支 な三

〔歌意〕雲の絶え間から牽牛けんぎゅう・織姫おりひめの二つの星が逢うという今宵の空を見渡すと、天の川の川波も何となく落ち着かない様子で、ざわざわと音を立てているよ。

〔出典〕新古今和歌集

（新潮日本古典集成）

〔解説〕



●
イとロ、イとニ、イとハ、イとト、
イとチ、ハとニ、ハとハ、ハとト、
ハとチ、ホとト、ホとチ、それぞれ
呼応。

● 〇 余白大切。

- 行のふくらみ大切。

- 行の中の密の動き大切。

● ↓ の方向、○、○の位置大切。

◆10月課題予告

木の葉吹きまく谷の夕風
おのづから音するものは庭の面に

締切り 9月25日(必着)

夏は家族で自然を満喫しました。
空気の澄んだ高原のキャンプ場で
大の字に寝転び、満天の星を眺め
ながら夏の大三角形を探しました。
子供らはすぐに見つけ、星に願い
をと、幸せな一夜を送りました。

夏は家族で自然を満喫しました。
空気の澄んだ高原のキャンプ場で
大の字に寝転び、満天の星を眺め
ながら夏の大三角形を探しました。
子供らはすぐに見つけ、星に願い
をと、幸せな一夜を送りました。

◎手本は水性ボールペン使用

作品の出し方

- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙Ⅱはがき課題ははがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
- 用具Ⅱはがき、横書き課題ともに自由。(黒色に限る)
- 両課題とも、書体変換は自由です。

横 書 き 課 題

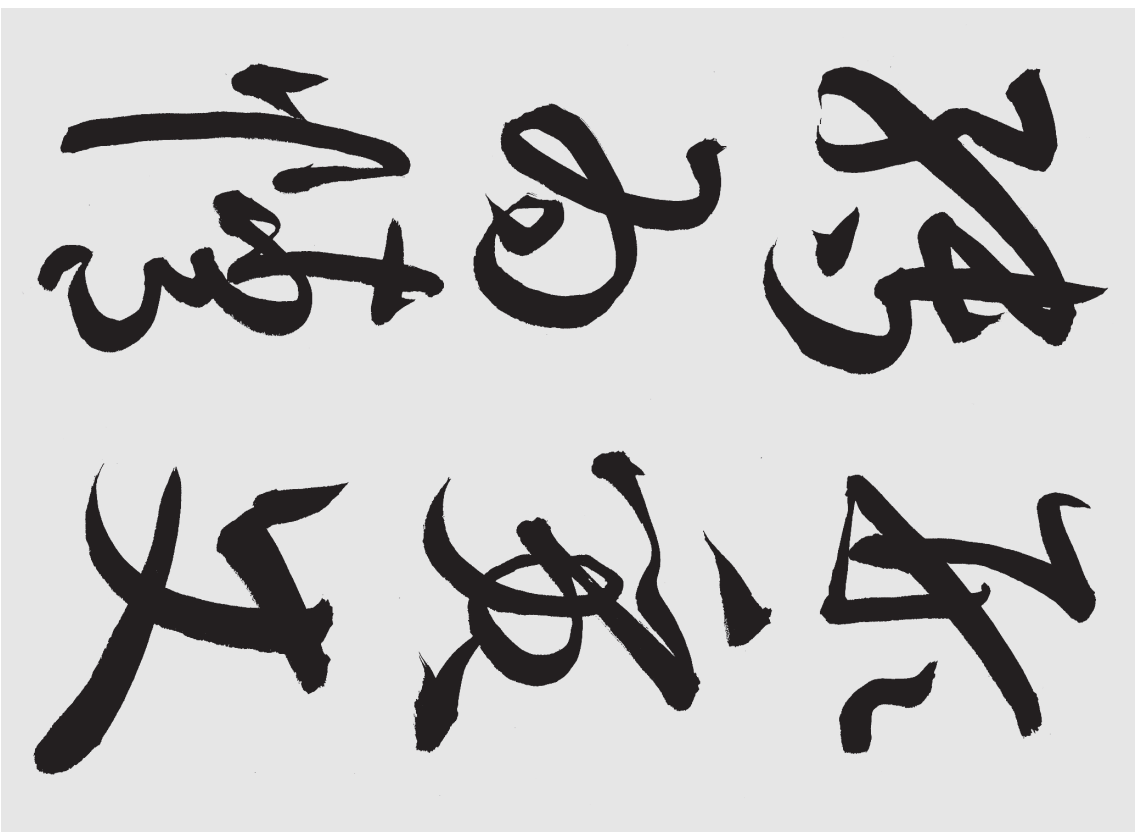
昭和39年9月、世界最初の本格的なモノレールが東京に開通した。

長崎県対馬市 氏 名

※手本はつけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

一般部毛筆漢字課題

締切り 9月25日(必着)



〔出典〕書譜（687）〔筆者〕孫過庭（648？～703？）
 〔読み〕形質と（為し、）使転を情（性）と為す。



新入から1級まで（楷書）
 須田 一葉 書

〔読み〕秋の虫自ら相語
 〔大意〕秋の虫が無心になきかわしている。

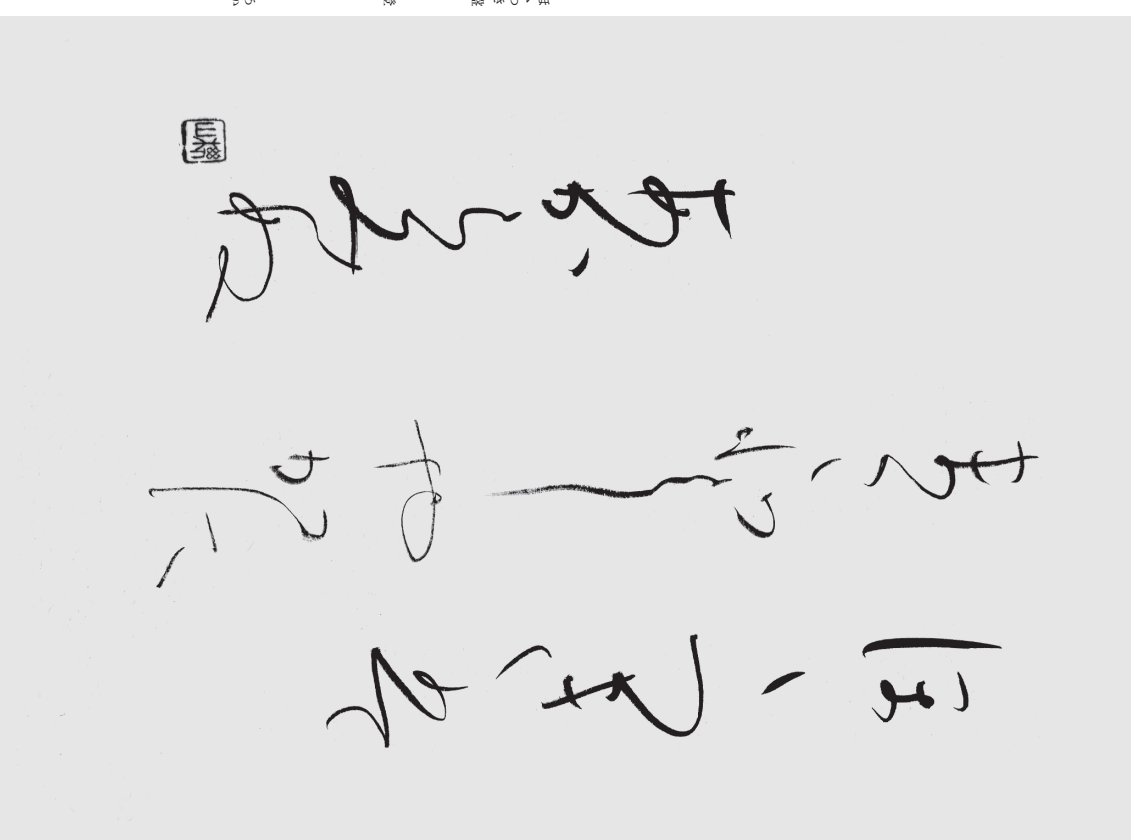
準初段から師範まで

奥村 暢之 臨

一般部毛筆かな課題

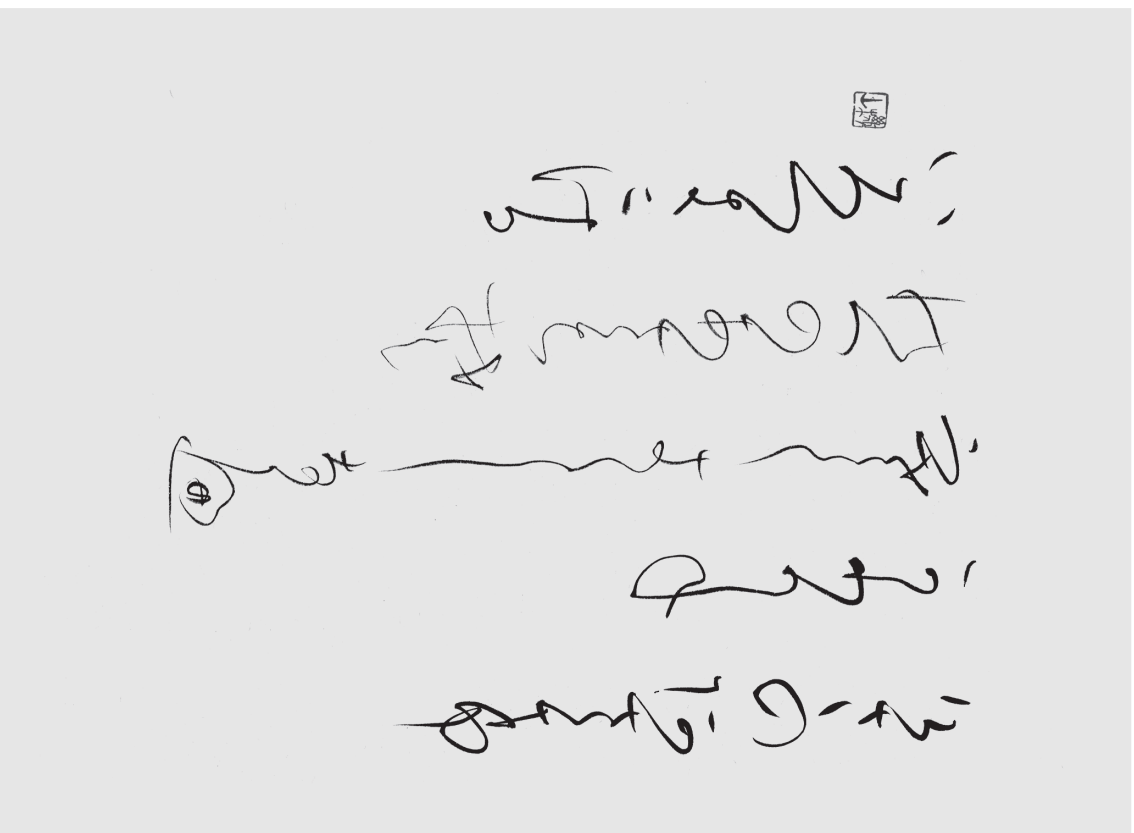
締切り 9月25日(必着)

新入から1級まで



浅井 磯山先生書

準初段から師範まで



■両課題とも文字の変換、ちらし方は自由です。

今朝の朝明雁が音寒く聞きしなへ
野辺の浅茅を色づきにける

【出典】聖武天皇

【歌意】今朝の明け方に雁の声を寒々と聞いたが、それと共に野辺の茅

草は色づいたことだ。

【出典】高浜虚子

【句意】鬼灯の実は色は作りもののようになく赤く色付く。そのとりつくろっ

たような鬼灯の色を、ひややかに眺めている。

一般部毛筆細字課題

一般部毛筆条幅課題

締切り 九月二十五日（必着）

半切（一二六cm×三五cm）

荻田蒼仙書



柳色漸輕秋雨暗
花香時為好風来
張末

〔大意〕柳の色合は秋風をへて次第にかげうすれ、蓮の花の香りを好風が吹き送る。
初出品の方へ

支部名・会員番号・姓名・毛筆漢字成績を、作品左下に必ずお書き下さい。

〔条幅解説〕半切というブランドに十四文字が、それぞれに与えられたポジションでどんな姿がよいのか。スタンドで見えるお客さんに楽しんで貰えるスタイルは？ 他の文字を生かすために、抑える字のスタイルは？ 監督である私は、四苦八苦の今月の作例。

祝御卒業 祝御成人 祝御結婚
御淋見舞 全快内祝 祝金婚式

書 華 玲 田 樋

祝御卒業 祝御成人 祝御結婚
祝御卒業 祝御成人 祝御結婚
御淋見舞 全快内祝 祝金婚式

御淋見舞 全快内祝 祝金婚式

田中久枝

半紙（334mm×240mm）

▼今回は、のし紙・のし袋の表書きの練習をします。右の句を、楷書と行書の二書体で書いて下さい。
▼書体は楷書で書くのが正式ですが、一般的には少しくずした行書で書いても失礼にはなりません。むしろ親しみがあっていいでしょう。
▼冠婚葬祭などの表書きは、現実的には筆ペンで書く人が多いようです。今回は特別に筆ペンの使用を認めます。

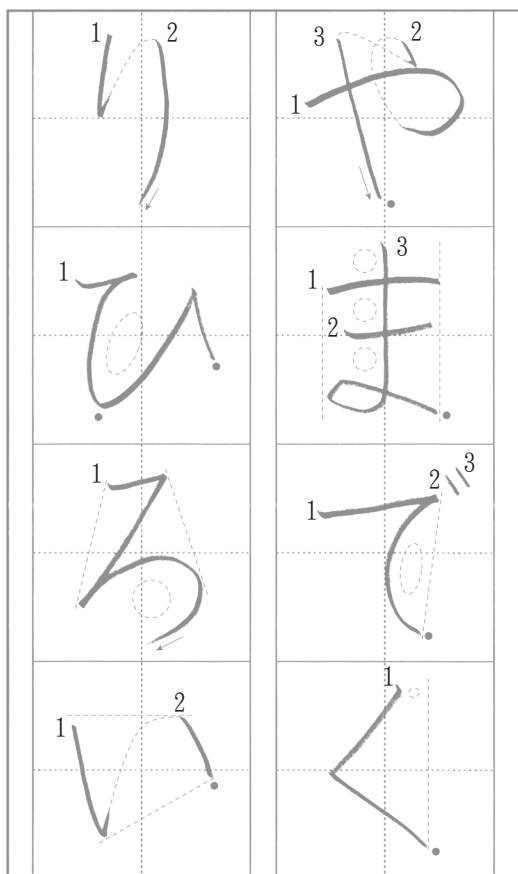
〔条幅・細字作品の出し方〕

■新入から師範まで、どなたでも出書できます。

■成績（天位〜5等）は、評価により毎月かわります。

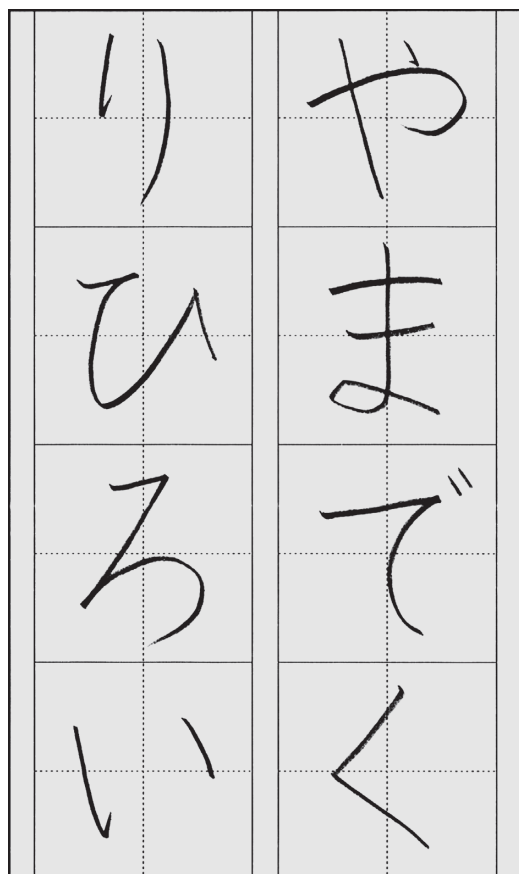
■書体変換、変体仮名の交換は自由です。

〈ようぐ〉自由(黒色にかざる)



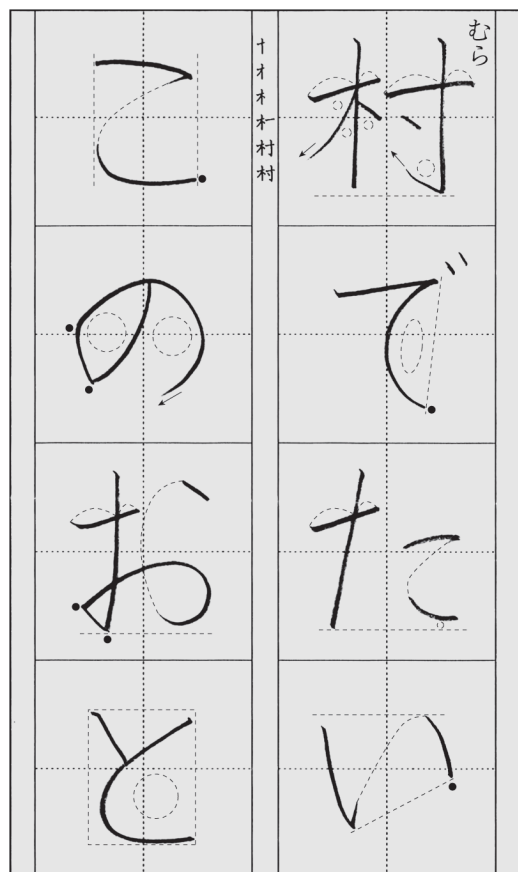
◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)

★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。



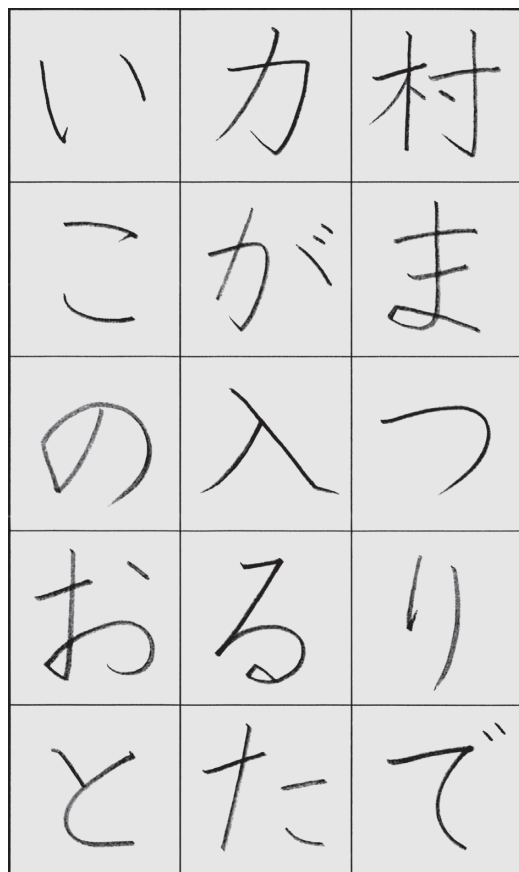
よ
う
年

幼年〜小三年まで
三宅容玉書



新入〜1級

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。



小
一
年

準初段以上

小二年

さ	て	朝
ん	川	早
ぽ	原	く
し	の	お
た	道	き

準初段以上

※川原^{かわら}＝単語としてこのように読みます。

新入～1級

小三年

黄	ン	犬
色	キ	小
に	で	屋
ぬ	白	を
る	と	ペ

準初段以上

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

新入～1級

〈ようぐ〉自由(黒色にかぎる)

き	朝 ^{あさ}
さ	早 ^{はや}
ん	く
ぽ	お

色 ^{いろ}	小 ^こ
に	屋 ^や
ぬ	を
る	白 ^{しろ}

〈用具〉自由(黒色に限る)

る	一丁千王玉	たま
象	ゾウ	の
の	ニニ并垂乗	乗
芸	ゲイ	り
芸	一ニ並並芸芸	す

新入〜1級

初	象	玉
め	の	乗
て	曲	り
見	芸	す
た	を	る

小四年

準初段以上

断	ダン	赤	あか
絶	ゼツ	信	シン
対	タイ	号	ゴウ
		横	オウ

解説(よく見て習いましょう)

に	横	赤
や	断	信
め	は	号
よ	絶	で
う	対	の

小五年

(全員)

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。

小四年以上 岡嶋桂川書

〈用具 自由(黒色に限る)〉

、 一 四 田 單	單 タン	カク 角
ニ 三 垂 垂 垂	垂 スイ	ジヨウ 定
十 十 直 直 直	直 チヨク	ギ 規
糸 糸 線 線 線	線 セン	カン 簡

解説(よく見て習いましょう)

線	簡	三
を	単	角
引	に	定
い	垂	規
た	直	で

小 六 年

(全員)

携	と	監
で	仲	督
優	間	の
勝	の	指
だ	連	揮

中二・三年 (行書)

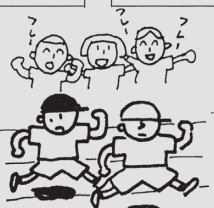
し	て	牧
緊	乗	場
張	馬	で
す	体	初
る	験	め

中 一 年

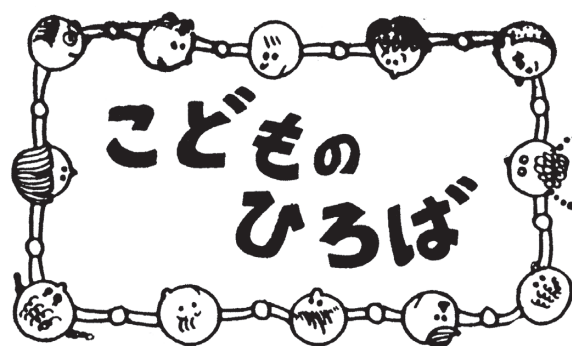
(行書)

▼小三年以下の課題 ささき 小 泉 書

フ	分 ^わ	赤 ^{あか}	練 ^{れん}	運 ^{うん}
レ	か	組 ^{ぐみ}	習 ^{しゅう}	動 ^{どう}
ー	れ	と	は	会 ^{かい}
フ	て	白 ^{しろ}		の
レ		組 ^{ぐみ}		
ー		に		



◎お手本はえんぴつ使用

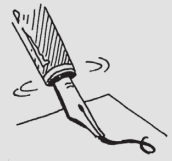


しめきり 9月25日(必着)

習っていない漢字は
ひらがなで書いてもよい。

▼小四年以上の課題 なが たに けい こ 書

肉 ^{にく}	こ	届 ^{とど}	父 ^{ちち}	海 ^{かい}
筆 ^{ひつ}	の	く	か	外 ^{がい}
の	ー	絵 ^え	ら	出 ^{しゅつ}
文 ^{もん}	丁 ^{てい}	葉 ^は	定 ^{てい}	張 ^{ちやう}
字 ^じ	時 ^じ	書 ^{がき}	期 ^き	中 ^{ちゅう}
が	代 ^{だい}		的 ^{てき}	の
輝 ^{かがや}	に		に	
く				



◎お手本はつけペン使用

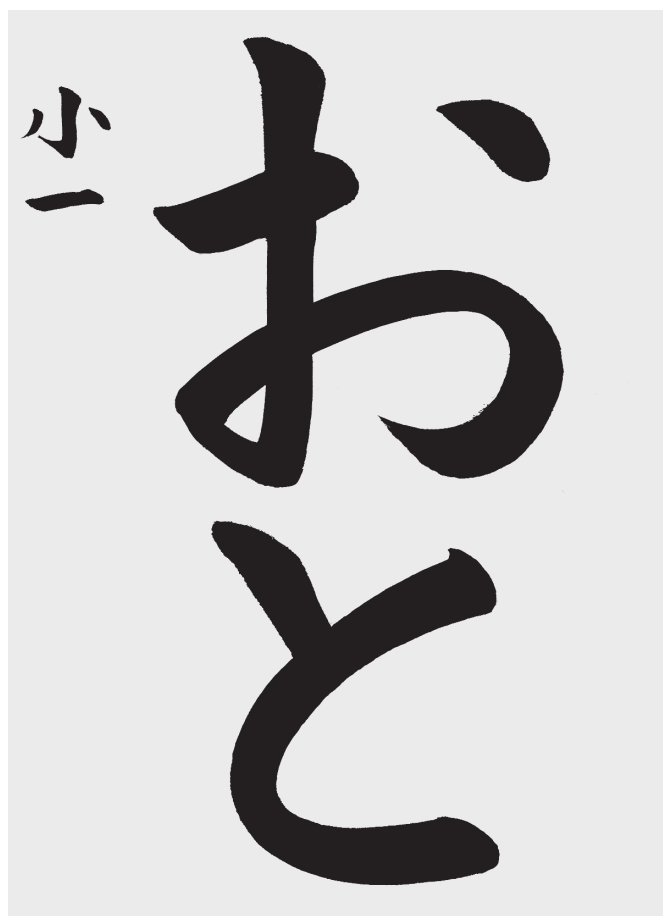
◇作品の出し方

- 一、選定用紙（五行・四行）に書いて下さい。
- 一、作品には、支部名（校名）学年、氏名を書き入れて下さい。
- 一、筆記用具は自由です。（黒色に限る）
- 一、四行用紙を使用してもよい。その場合は、文章を適当に短くして下さい。
- 一、成績は評価により毎月変わります。
- 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。



幼年／小二年

玉樹小華書





小三、小五年
水野香竹書

中二・三
監督 指揮

小六
三角 定規

小六・中二・三年
奥村暢之書

中一
乗馬 身体

定規 馬
監督 指揮

※行書は線の連なりを大切に！